

図書館報 篠崎

039号

FROM館長

この冬、オリンピック関連の本を読んでもみませんか？

12月になり、今年もいよいよ終わろうとしています。実は、今年は1964年東京オリンピック・パラリンピックの開催から50周年という記念すべき年でした。すでに年末ですが、この節目の年に改めてオリンピック・パラリンピックの意義を考え、2020年大会に向けた気運の盛り上げのきっかけづくりとして、12月14日に講演会を開催いたします。題して「1964年東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシー（遺産）：継承から飛翔へ」。首都大学東京・舛本直文教授をお招きし、1964年東京オリンピック・パラリンピックについてお話をさせていただく予定になっています。

舛本教授の専門はスポーツ哲学、スポーツ映像文化論、オリンピック研究です。NPO法人日本オリンピック・アカデミー理事（研究委員会委員長）、東京都教育庁「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」（副委員長）でもあり

ます。ぜひ、講演会にご参加下さい。

ところで、講演会などのイベントについて、お客様から「どうやって講演会の講師を呼んでいるのですか」と聞かれることがあります。私も含めて担当のスタッフは飛び込みで依頼をしています。12月に開催する講演会は私が9月頃、舛本直文教授に飛び込みで講演を依頼しました。また、1月に開催する真利子伊知郎氏（江戸川区農業経営者クラブ会長）に江戸川区の小松菜についてお話いただく講演会も、スタッフが飛び込みで依頼したものです。

こういったイベントは図書館にある資料を皆様により多く手に取ってもらえるよう考えながら、季節やそのときの時流、江戸川区に關係するもの等をテーマに企画しています。イベントに参加したついでに關係する本なども見ると、より楽しめると思います。

特集「いつか読んでみたい、あの本」

そのメロディに魅せられて♪

P3 「ムーン・リヴァー」
（『エッセンシャル・アンディ・ウィリアムス』収録）

P4 人物ブックマーク
「太田道灌」

P4 スタッフのセレクション！
「食卓の情景」 池波 正太郎著

江戸川まいにんぐ 発掘 第39回

善養寺

善養寺と言えば、日本一の繁茂面積を誇る影向の松でご存知の方も多いことかと思います。この松、樹齢は600年以上で、2011年に国の天然記念物に指定されました。「影向」とは神仏がこの世に現れた姿のことです。その枝には鳥や、猿の形に見えるものもあり、そんな枝を探してみるのも楽しいものです。

また、本寺では毎年菊花大会が開催されたり、境内には影向の松の他にも、仁王門、不動堂、なでぼとけ、星降りの松、八十八ヶ所霊場、和傘の碑などがあります。その中で、今回は天明三年浅間山噴火横死者供養碑をご紹介します。

今秋の御嶽山の噴火は自然の驚異を実感させられたものでしたね。この浅間山の噴火はその比ではなく、関東各地で田畑作業が全滅したり、山津波による被害で流失した村は70を超えるほどだったそうです。人馬の遺体も無数にあり、それは利根川や江戸川に満ちあふれ、特に小岩の善養寺前にあった毘沙門洲にはうず高く漂着して、船の運航にも差し支えるほどだったそうです。下小岩村の人びとはこれを手厚く葬り、寛政7年（1795）の13回忌にこの碑を建てました。昭和48年には東京都の文化財に指定されています。

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。



影向の松



浅間山噴火横死者供養碑

参考資料

「江戸川区史跡散歩」 内田 定夫著 学生社 K1-29 篠崎ほか所蔵

「江戸川区の史跡と名所」 江戸川区教育委員会事務局生涯学習課文化財係編 江戸川区教育委員会 K1-29 篠崎ほか所蔵

イベント情報

「1964年東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシー（遺産）」

～継承から飛翔へ～

講師：舛本 直文氏

12月14日（日）14時開演（13時30分開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室

定員：50名（事前申込み制）

図書館カウンターまたはお電話にて受付中。

「魅力あふれる江戸川の小松菜～江戸川区農業経営者クラブ会長に聞く～」

講師：真利子 伊知郎氏

1月24日（土）14時開演（13時30分開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室

定員：50名（事前申込み制）

12月20日（土）14:00から図書館カウンターまたはお電話にて受付します。

☆年末年始のお知らせ

12月31日（水）から1月2日（金）まで休館となります。休館中の本・雑誌のご返却はブックポストをご利用下さい。

人物ブックマーク

第二十八葉

おお た どうかん
太田 道灌

部下は上司を選べないと嘆いている人も少なくないとは思いますが、今回ご紹介する太田道灌もその一人で、上司に恵まれなかったため悲劇の名将といわれています。

道灌は永享4年(1432年)、相模国(神奈川県)で扇谷上杉家の家宰・太田資清の子として生まれました。幼名が鶴千代、元服して資長と名乗りました。ちなみに道灌は出家名です。道灌も父同様、扇谷上杉氏に仕えました。道灌23歳の時、鎌倉公方足利成氏(後の古河公方)が関東管領上杉憲忠を暗殺。幕府、関東管領上杉方と足利方が争い、その抗争は関東全域を巻き込んで拡大し28年間続くことになります(享徳の乱)。

この抗争の中、対足利成氏方の拠点として道灌は江戸城を築城しました。築城以降の道灌の活躍は目覚ましく、寺社領へ干渉を行ない上杉家の財政を回復させました。

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

また、上杉家の重臣・長尾景春の乱では景春方と三十余度戦うなど、関東各地を転戦し上杉家の発展に尽力しました。上杉家の家宰として関東に並ぶ者がいないといわれた道灌ですが、その名声の高さを主君の定正は苦々しく思っていたようです。文明18年(1486年)、道灌は主君・上杉定正に招かれ、居館にて謀殺されてしまいました。死の間際「当方滅亡」と叫んだといわれています。享年55歳。その予言通り、上杉家は没落していくことになるのです。

上司を選べないのは現代も同じです。道灌のように謀殺されないにしろ、パワハラ・セクハラが社会問題になっている今日この頃。上司と上手く付き合っ、自分の身は自分で守らなければいけませんね。

関連書

「扇谷上杉氏と太田道灌」	黒田 基樹著	岩田書院	219.3ク	中央所蔵
「図説太田道灌」	黒田 基樹著	戎光祥出版	289.1オ	篠崎ほか所蔵
「太田道真と道灌」	小泉 功著	幹書房	289.1オ	篠崎ほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「食卓の情景」 池波 正太郎著 新潮文庫 B596イ 篠崎ほか所蔵

『鬼平犯科帳』『剣客商売』等の時代小説をはじめ、食通としても知られている作家・池波正太郎が、昭和47～48年に週刊朝日で連載していた食のエッセイを単行本化したのが、この『食卓の情景』です。

一人旅で、あるいは仕事仲間や友人らと訪れた各地の宿や料理屋のこと、日々の食事の内容とそのときの出来事を綴った食日記などのエピソードの数々。小説を書き始めると、内容によって「人が変わったようになる」と家族からいわれたり、旅先では、呉服屋、べっこう屋の主人、刑事などいろいろな職業にみられるので、そのままその人物になりきって過ごすことを楽しんだ、というエピソードも紹介されています。これはかつて芝居の脚本を書いたり演出をしていたから、だとか。一方、縁日で「どんどん焼き」の屋台のおやじに惚れ込んで

弟子入りを志願した話、両親が離婚して母子家庭となった自分を気にかけて、放課後カレーライスをごちそうしてくれた小学校の担任の先生の思い出など、少年時代の話はほのぼのとさせられます。

家に引きこもって何日も仕事を続けることが多かった著者にとって「食べることは唯一のなぐさめ」だったそうです。また、著者の母も女手一つで一家を養うため外で働いていた時の唯一の楽しみが、勤めの後にひとりで好きなおすしをつまむことだった、という話も出てきます。改めて、「食べる」ことは大切なこと、元気の源なのだということが気づかされます。食べ物やお店についての知識を得るための食の本というだけでなく、著者の人柄や人生そのものを知ることができるという点でも楽しめる一冊です。

編集後記

お正月の楽しみは初詣に行って、出店でたこ焼きや広島焼きなど買い食いすることです。(風雲ふわふわ丸) / いくつか読みたい本、積読本が溜まりに溜まって本棚一段分もあります。なのに図書館で本を借りてしまうという……。 (かき氷職人) / いくつか、やってみたいことは、山登り、マラソン……。 いや、体Damageあるので、家で本読んでマス。(M.弱尊)

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>